

平成28年度 学校評価（評価結果報告）

島根県立浜田商業高等学校

評価計画			自己評価			学校関係者評価			
評価項目	評価領域	担当分掌	本年度の目標	目標達成のための方策	評価	達成状況	改善策	評価	コメント
学習と部活動の両立	基礎学力の定着	教務 進路指導 商業 学年会	生徒が自ら学ぶ力を養うための授業改善と、基礎学力の向上を図る	・授業互見の計画的実施と相互評価によるスキルアップ ・校外研修でのスキル向上 ・ALの視点に立った授業展開やICTの活用による授業改善	B	校外研修への参加者は増加。研修内容を踏まえて授業改善を図るなど教職員の意識の高まりが見られた。ICT活用についても、利用することを最優先として工夫・活用をしている。	さらに校外研修を奨励して授業改善を推進していく。ICTもこれからの新たな学びの中心的役割を果たすと思われるため、利用環境の整備を含めて推進する。授業互見や校内研修により充実を図る。	B	授業参観から、生徒の実態に応じて工夫をして学習指導をしていることがうかがえる。ただし、生徒の文章能力や表現力が希薄な印象を受けた。人間関係をつくる上で必要な表現力を育成して、人間力を高める授業展開に努めて欲しい。また、教室は狭く、机上に教材が置ききれない状況にある等、学習環境が劣悪であり、学習内容以前の問題である。早急な環境の整備と充実を強く求める。
			理解不十分な生徒に対して補習等を実施し、学力の向上を図る	・放課後や長期休業を活用した指導の推進 ・要支援生徒へのサポート ・学び直しの機会の複数回設定	B	長期休業中や定期試験中の放課後を活用して指導を実施し、学年会や教科の早期の対応により成果をあげた。学び直しは散発的展開に留まり、課題を残した。	授業を通して生徒理解をより深めた上、生徒の状況や実態に応じた個別指導を継続していく。生徒の自己肯定感を高め、主体的に学ぶ力の育成を目指す。		
			家庭学習を定着させ、自学自習の態度を養う	・適切な課題や宿題による、学びの意欲の喚起 ・漢字・英単語・一般常識テストなどによる基礎学力の向上	B	教科ごとに課題の精選と提出の確認を徹底した。また、計画的に諸テストを行い、授業・補習での確認を実施した。短期的には効果が見られたが、生徒の日常的な家庭学習の定着へとはつながらなかった。	組織的に学び直しを実践していく必要がある。教務部・進路指導部を中心として新教材・他校の実践例の導入を検討し、生徒の家庭学習の定着と主体的に学ぶ意欲の喚起を図る。		
	部活動の振興	生徒	部活動の活性化を図る	・入部勧誘活動の充実 ・活動時間の確保 ・活動環境の整備	B	文化祭の学校実施、作品展示、各部活動の様子を紹介する写真展示など啓発活動を通じ、他の部活動に対する理解の深まりが見られた。アンケート結果は前年と変化なし。	継続して啓発活動を実施して、互いに共感し、励ましあう機会を作る。部活動顧問会の意見を参考にして部活動の活性化を推進する。	A	学校近隣の住民より、グラウンドから生徒の声がしないと寂しいという声を聞く。地域の期待でもあり、さらなる活性化に期待している。
明るく魅力ある学校づくり	さわやか浜商生の育成	生徒 商業	さわやかな身だしなみを徹底する。	・全教職員による登校指導 ・定期的な身だしなみ指導 ・日常的な現場での指導	B	目標達成のための方策は計画通り実施できた。学校内外の活動において、生徒の身だしなみ・ふるまいは高い評価を受けている。	全教職員の共通理解のもと、「さわやか浜商生」のスローガンの実現のため、生徒会を中心とする生徒の主体的な活動を支援する。	A	挨拶や身だしなみは地域からも高く評価されている。登下校の様子を見ると、自転車通学の生徒が踏切や三差路で一旦停止をすることはなく、軽車両であるという意識が希薄である。将来を見据えた交通安全指導の必要がある。
			自主的な生徒会活動を支援する	・生徒の自主的な活動の奨励 ・生徒会の主体的活動への支援 ・定期的な生徒会通信の発行	A	生徒会を中心とする生徒の主体的な活動を支援し、生徒も積極的に取り組んだ。生徒会通信も前年並みに発行できた。	生徒は自己有用感を持ち、意欲的かつ創造的に取り組んでいる。この取り組みを校外内の他の場面に活かす働きかけを実践する。		
	スペシャリストの養成	商業	各種検定に挑戦させ、成果をあげる 地域IT人材育成事業を導入し、教職員・生徒の意識の高揚を図る	・検定パワーアップ期間の充実 ・高度取得を目指す生徒に対する学習支援 ・教育課程の検討 ・IT人材育成事業の導入	B	検定については、計画以上の補習を実施したが、合格実績へとはつながらなかった。教育課程は見直しを行った。IT人材育成事業は計画通りに実施し、教職員・生徒ともに理解が深まり、具体的なビジネスプラン提示など成果が見られた。	検定については、授業展開の改善により合格率の向上を図る。IT人材育成事業を定着・発展させることにより高い意欲・技能を持った人材の育成に努める。	B	検定について、他校と比較しても成果が上がっていない。生徒の意欲と自覚を促す意味でも環境づくりが必要である。
	創造力のある生徒の育成	総務 教務	読書環境を整備し、読書習慣の確立を支援することで生徒の創造性を育てる。	・朝読書の支援 ・利用しやすい図書館づくり ・ピリオパタルの定期開催	B	文化祭でピリオパタルは、予想以上に好評であった。「図書館だより」は生徒・保護者の興味を高めるように改善をした。	「図書館だより」「From Library」の支援がわかりにくい面がある。多くの生徒を巻き込んで編集をするなどの改善をする。	B	読書意欲を高めるための働きかけは十分なされている。広報の工夫が必要である。
	家庭・地域との連携	総務 商業	校外での活動を通して、地域に貢献するとともに、浜商の魅力をアピールする	・地域行事への積極的参加 ・浜商デパート等の販売実習の充実 ・課題研究の充実 ・「地域系部活動推進事業」への参加	A	浜商デパートは県外校との連携により充実を図った。課題研究により生徒の地域理解と郷土愛・自己有用感の育成が図られるとともに、推進事業により校外へ発信した。	今年度の事業を発展し、産学官連携を深める。IT人材育成を経験した生徒の視点から地域資源を再点検し、その活用を模索する。	A	地域理解や地域貢献は進んでいる。より深化することで地域における存在価値を高めることが求められる。
	魅力の発信と生徒募集	総務	ホームページを充実させ、情報発信に努める	・ホームページの内容の充実と更新 ・報道機関等への情報提供 ・学校だよりの発行	A	ホームページは年間200回以上更新し、最新の情報を提供できたが、教職員の助言を求めてより有意なものにする必要があった。学校だよりは発行できなかった。	業者に依頼して、生徒・保護者・地域には有意な、教職員には情報を提供しやすいものになるよう、ホームページを再構築する。	A	ホームページの中に中学生やその保護者を対象としたページを作成し、本校の特長や魅力をアピールすると良い。
		総務 教務	志願者の確保	・オープンスクールの充実 ・学校行事への参加促進 ・広報紙「浜商トピック」の発行 ・中学生保護者対象の「学校説明会」の開催	A	オープンスクールは参加した中学生や保護者より高い評価を得て、本校理解へつながった。広報紙は月1回発行して中学校へ配布をした。「学校説明会」を2回開催したが、告知が十分でなく、参加者が少なかった。	中学生の要望を分析し、参加者に魅力あるオープンスクールとなるよう一層工夫をする。学校説明会は開催時期などを改善して継続する。商業教育への理解を深めるために中学校との教科交流を図る。	A	遠方からの入学生のために下宿先を募集する等、学校側の努力を感じている。高校魅力化が進む中、浜田市へ志願者確保のための方策への協力を要請してはどうか。
安心・安全な学校生活	安心・安全な生活環境の整備	保健相談 生徒 事務	一人ひとりの人権への配慮	・人権・同和教育LHRの充実 ・生徒意識調査を活用しての実態把握 ・差別に対する実践的態度の育成 ・アンケートQUの活用	B	生徒意識調査を計画通り実施し、問題の早期発見・早期解消へつながった。人権・同和教育LHR、さわやかステージは各学年会・生徒会と連携して実施できた。	推進委員会の効果的運営・運用を図りながら、日常生活とリンクさせた啓発活動の推進に努める。アンケートQU活用の研修をより充実し、早期対応をする。	B	生徒アンケートの「心配を相談しやすいか」の評価が低い。生徒の不安や悩みを受け入れる窓口を明確にする必要がある。
			生徒の健康状態を把握し適切な健康管理を行う	・朝の健康観察の実施 ・健康の保持・増進のための啓発活動 ・スクールカウンセラーの活用 ・生徒サポート委員会の充実	A	毎朝の健康観察や保健便りの発行を通して生徒の健康の維持・増進が図られた。校内連携により情報共有が図られ、SCの効果的な活用へつながっている。校外機関との密な連携により、個別の支援も深化した。	今後も、健康観察や健康情報の発信により、疾病やけがの予防に努める。個別の支援の内容が多様化する中、専門機関との連携を深めて、早期対応と具体的な支援へつながるよう努める。	A	当地域でも認知症高齢者の事故の事例も発生している。認知症に関する講習や前年からの懸案である全校生徒対象の救急救命講習を実施して、地域の安心・安全を守る担い手としての自覚も促してもらいたい。
			安全指導を実施するとともに、安全点検を徹底する	・防災避難訓練の充実 ・校内の危険箇所の点検 ・緊急連絡対応訓練の実施 ・緊急メールを利用した情報提供	A	防災避難訓練・安全点検は計画通り実施できた。緊急連絡対応訓練は具体的な場面を想定することで、教職員の意識の高揚と理解へつながった。	連絡ツールを活用しての初期対応は深化した。危機の未然防止策と、生徒相互の危機対応策の改善と検証を進める。		
進路実現の支援	キャリア教育の推進	進路指導 商業	望ましい勤労観・職業観の育成に努め、生徒の自己実現を支援する	・学年毎の進路集会の充実 ・適切な情報提供やガイダンス ・インターンシップの主体的参加 ・キャリア教育全体計画の再構築	B	進路集会・ガイダンス・進路便りの発行は計画通り実施した。インターンシップは、2年生を対象に47の事業所で実施する。キャリア教育は推進委員会を定期的に開催できず、見直しをすることができなかった。	各分掌の行事の他、授業や特別活動でキャリア教育を推進する機会が多い。現状を整理し、意義付けを深めるといった観点を持って、全体計画を再構築する。	B	自分の人生を自分で切り拓くことは自己責任であるということも教えるべきである。その自覚のもとに進路選択を考える際、必要となるサポートを充実させていきたい。
			生徒の資質、適性、志望に応じた進路指導を目指す	・きめの細かい生徒面談の実施 ・小論文・面接指導の充実 ・保護者との連携強化 ・要支援生徒への支援	B	計画に基づく指導を展開できたが、学力不足のために就職・進学試験で不合格となる者、また、既卒生にも中途退学をせざるを得ない者見受けられた。要支援生徒について、長期の支援による成果が見られた。	進路選択に必要な学力の不足が顕著である。学び直し教材を導入して、入学時から必要な学力を育成することを検討する。同時に指導計画の見直しを図る。	B	学力不足のため進路実現が妨げられるのは大きな問題である。進路保障の観点からも必要な力はつけさせなければならない。単に学力をつけさせるだけでなく、問題解決能力を持ち人間味あふれる生徒を育成する教育、未来に希望を持ち続ける生徒を育てる教育に期待している。
			行政・企業・上級学校との連携を行い、就業先・進学先の確保と情報収集に努める。	・企業・上級学校訪問の推進 ・ハローワークとの連携 ・取得した情報の迅速な提供	B	校外での地域連携の影響もあり、地元就職率が向上した（県内70%、うち市内57%）。特に、男子の割合の増加が顕著である（県内86%、うち市内79%）。	情報提供について、生徒・保護者のアンケート結果からはまだニーズに応えていない。4-5月に企業を招いたガイダンスを開催するなど、具体的な方策により改善を図る。		

評価基準 A(できている) = 4. 0≧3. 1 B(だいたいできている) = 3. 0≧2. 6 C(やや不十分である) = 2. 5≧2. 1 D(不十分である) = 2. 0≧1. 0 (4. 0満点中)